

(再開 午後1時45分)

議長 (勝山 正)

休憩前に引き続き会議を開きます。

6番 丸山議員。

(「はい、議長。6番。」の声あり)

(6番 丸山邦久 議員 登壇)

1. スキー場の現状と今後について

6番 丸山邦久 議員

それでは、通告に基づきまして、3点の質問をさせていただきます。

最初の質問であります。スキー場の現状と今後について。

令和5年3月、木島平スキー場を木島平村の第3セクターからSBCメディカルグループ株式会社(長いので、以下、SBCと呼ばさせていただきます。)に経営権を移し、令和5年12月から最初のスキーシーズンが始まりました。

スキーシーズン終盤にかかっている現在まで、SBCに経営が変わって良かったという声を聞いたことは、私は一度もなく、既存のスキー場業者から悲鳴のような声が多数寄せられております。実際に議員7名で伺いまして、事業者6名の方から意見を聞いております。

その意見は1時間半におよびまして、非常に多々な意見を頂戴いたしました。その中からわずかですが、抜粋をさせていただきます。皆さんにちょっとお聞き、特に村長にお聞きいただきたい。

「営業できる日は週の2日。売上げは今までの3分の1以下です。休業せざるを得ない日も多くなって、このままでは生活ができない。この会社は(SBCのことですね)営業する人たちを苦しめて来ているのか。村長はこの状況を見に来ているのか。これが1人目。

2人目です。「今シーズンの集客は去年の半減に近い。お客様から聞かれるのは、なぜリフト券の割引がなくなったのですかということだ。」この方はもっといろいろあったんですが、これだけにします。

3人目。「去年の5月から、今シーズンのリフト券の販売価格とかポールバーンやいろいろな面について問い合わせをしてきたが、全然返事がこなかった。11月1日のホームページで、打合せは一切行わないと発表された。こんな状態では、私達とすれば対処のしようがない。駐車場への車の入り方や、ゲレンデのスキーヤーの数も本当に少ない。このような状態でやっていけるのか心配になる。みんなで良いアイデアを出し合って、改善できることは改善していかないと、宿泊業を辞める人もたくさん出てくる。ポールを張ってはいけないということで、競技スキーの団体がゼロになった。売上げで3分の1くらいのダウンになっている。ほかの宿泊施設でもかなり影響している。」

次の方です。「今までは、夏場にゲレンデの草刈りに行くとシーズン券が1枚もらえた。そのほか売上げに応じて何枚かももらえた。お金で買う場合は1枚2万円を買っていた。それが今年からは1枚5万円を買わざるを得なくなった。資金需要が多い12月に、15万、20万円のお金を出せないで、今年を買えなかった。既にコロナでみんな相当弱ってきている。売上げが半分以下、3分の1くらいのところからやっと回復し始めたところにこんなことになり、もう昔の売上げに回復することは不可能だと感じている。」

次の方。「リフト券の値段が高すぎる。奥伊吹は、ほかにスキー場がないから、スキー客が集まってきて、サービスが悪くても集客ができています。反対に、ここは周辺にスキー場がたくさんあって、

その中で、木島平スキー場はファミリースキー場としてお客様に来ていただいていた。それなのに、高飛車な値段をつけたから、もう来ることができないとお客様が言っている。木島平離れが激しい。今まで、県内のお客様と県外のお客様の割合がおおむね 50 対 50 だったが、今は県内は 2 割もない。近隣の市町村のお客様が他のスキー場に行っている。その結果、レストラン食堂の売上げが激減している。今まで長野市周辺から泊まりに来るお客さんがいたが、来なくなった。ここは、高価格帯で勝負できる施設ではない。我々事業者が何とか生活できるように、話合いの場を設けることができるようお願いしたい。」

次の方。「木島平がリフト券をネットで購入する人にとって、割引もなく非常に割高である。うちの泊まり客は、ほかのスキー場に行ってしまう。」

最後にコカ・コーラさんの自販機の話です。「コカ・コーラの自販機の売上げが今年の 10 分の 1 になり、撤退の検討をしなければならない」と言っている。

以上が悲鳴のような声であります。ほんの一部です。

このままでは営業を継続できない事業者が多数出てくることが予想されます。村長がこの村にとって大事であると言いつけてきたスキー場が今、大変な危機に瀕しています。

そこで伺います。

1 番目、村長はスキー場の現状を知っているのか。スキー場に行って関係者の話を聞いたことがありますか。

2 番目、SBC に経営を譲渡して正解だと考えていますか。

3 番目、困っている事業者が出ていることに対する責任は、誰にあると考えていますか。

4 番目、救済を考える気はありますか。

5 番目、SBC と交渉する窓口はどこですか。

6 番目、姉妹都市の調布市との関係に悪影響を与えるおそれはないか。

7 番目、24 日のスキー場のコンサートに、役場の職員が多数スタッフとして交通制限あたっていたが、彼らはボランティアですか。そうでなければ人件費はどこが負担するのですか。また、村のマイクロバスが何台か観客の移動に使われていたが、その費用はどうなっているのか。さらに、The きじまの駐車場の料金 30 万円（これは村の職員が交渉に行ったそうです。）、それから、レイジャントの大型バスの賃借料（これも村の職員交渉に行ったと私は聞いております。）は、誰が負担するのでしょうか。

ご答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

それでは、丸山議員の「スキー場の現状と今後について」というご質問であります。

最初の質問であります。シリーズの途中でありますので、現時点でまとまったご意見は伺っておりませんが、従来の運営方針からの変更となった部分で、客層・来場者に変化があったということは承知をしております。

特にポールバーンの廃止による競技スキーが減少していること、村民シーズン券の購入価格の変更に伴う購入者の減少、そしてまた近隣市町村への割引の見直しというか廃止、それに伴う利用者の減があったというふうに聞いております。

先ほど申し上げましたが、現在の状況等踏まえながら、またこれについては運営者と協議をする場を設けていきたいと考えております。

民営化の方針の中で、SBC メディカルグループ株式会社に託すということに決めたわけですが、方針については現在も変わっておりませんし、また、新たな体制のもとで1年目から結果出すのはなかなか難しいかと、今後、経営が変わったことによる良い意味での影響が村内に広がっていくことを期待しております。

「正しかったかどうか」という質問ではありますが、観光産業は本来、民間事業というふうに考えております。これまでも説明してきましたとおり、村の財政状況等を考えると、村の将来を考えた場合には、あるべき姿ではないかというふうに思っております。

それからまた、「困っている事業者がいることについて、責任は誰にあるか」ということであります。責任は誰にあるかというよりも、それぞれ状況によって困難な状況になる部分もあるというふうにご指摘ですが、それらを捉えながら、村としてそれに適切に対処していくというのが村の責任ではないかと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から4点目以降のご質問にお答えをいたします。

まず4点目ですけれども、「救済を考える気はあるのか」というご質問です。

前のご質問でも回答したとおり、村として事業者支援に当たるものについては、お話を聞く中で具体的な対応を検討していく必要があると考えております。

5点目ですが、「交渉する窓口はどこか」ということで、村の窓口としますと、直接の窓口としては産業課と考えておりますが、事案等によりそれぞれ判断をいたします。

6点目「調布市・姉妹都市との関係」でございます。

両市村の関係としては、スキー場も良好な関係構築の中での重要な要素であると考えますが、今回の民営化によって、今まで構築してきた関係性が崩れるといったことはないと考えております。

調布市から、スキー教室については従来どおり金額設定ができなくなったことは承知をしておりますけれども、新年度予算の中でも、調布市及び八丈町からの修学旅行が索道施設を利用する際の利用料の助成などを予算化し、負担軽減に繋げたいと考えております。

最後7点目「コンサートの人員等の関係」でございます。

今回のイベントでの協力につきましては、イベントの性質上、スキー場のPR効果を始めとし、村全体の知名度アップとなり観光事業への影響が大きいこと、また、このような大きなイベントでは、駐車場の不足、道路渋滞等混雑も考えられたため、村に来ていただく人をスムーズに誘導する必要がある協力をしたものです。人件費・車両費は、村負担としております。

The きじまの駐車場については、イベントの打合せをする中、想定来場者数を考えると駐車場が不足していたため、The きじまの駐車場の利用が不可欠でありました。借用については、SBC 木島平リゾートから交渉をしてもらい、費用がかかっても借りた方がいいというところで提案したところでありまして、交渉はしておりません。

レイジャントのバス借用については、2月22日の最終打合せの際、輸送可能な車両の確保ができていないという状況の中で、経費は会社が負担をするものとしたうえで村の方でレイジャントへ、バスの借用をお願いをしたまでです。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、再質問をさせていただきます。

①についてであります。

スキー場の営業者の生の声を聞くことが村長の責務であると私は考えますが、懇談会を開いて直接、事業者の声を聞く考えはありますでしょうか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

どういう形になるか具体的なお答えはございませんが、いろんな皆さんの声を聞く場は必要だろうというふうに考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

事はあんまり悠長に構えている時間はないように思います。

いつまでにやられるお考えか、村長のお考えをお願いします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

これまでのほかの議員の中でも答弁でしてまいりましたが、今シーズン途中であります、様々な声があるということは承知をしておりますが、シーズンが終了のめどがたった頃にそういう場を設ければと考えておりますので、よろしくをお願いします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

今シーズンが終わるめどがたった頃とありますが、具体的に何月ですか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

さっき申し上げました。まだ具体的になっていないということであります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

事の重要さから考えれば、最重要課題として取り組んでいただいても、私はいんじゃないかと思うんですよ。そんないつか開くかわかんないような答弁は、ちょっと私としては困るんですが、事業者としてもとても困ると思います。ぜひ期日を切っていただきたい。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

私が一存で決めるべきものではないのではないかと思います。やはり相手方もありますんで、その辺はご理解いただきたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、相手方への繋ぎ役は、私に任せていただけませんか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

そういう手を煩わせることをしたくないんで、こちらの方で段取りいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

私、手を煩わせると思っていないですよ。村長が早くやってくれればいいだけの話なんですよ。例えば4月の15日までとか、4月中とか、そういうことを言ってくれないからこういう話になるんですよ。責任感がちょっとないんじゃないですか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

どの部分が質問かよくわからないんですが、できるだけ早めにできればと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

先ほど私の1番の質問はですね、スキー場の現実を知っているのか、スキー場に行って関係者の話を聞いたことがあるのか。この「関係者の話をスキー場に行って聞いたことがあるのか」については、お答えいただいてないと思います。行ったことがあるのかないのか。その辺、簡潔明瞭にお願いします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

宿泊業者の皆さんからは、じかにお話は何っておりませんが、スキー場の関係者とは話をしてそれぞれの話は聞いております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それは、スキー場の事業者と話す必要がないという意味ですか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日基正博」登壇)

村長（日基正博）

ないという意味ではなくて、現時点ではそういう機会がないということでもあります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

なかなかちゃんとお答えいただけないので、ほかの質問に代えさせていただきます。

これも①に関する質問なんですが、昨日の山浦議員の質問に、産業課長は「この機を新たなチャンスに捉え、事業を展開している事業者がいることをご理解いただきたい」と言われた。

先ほど私がチョイスしてお聞かせしたね、事業者の声っていうのは、相当頑張っておられる事業者が言った言葉なんです。私が考える限り、経営のマイナス要素だらけの中でSBCに経営移譲することが本当にビジネスチャンスになったのか。そこを産業課長にお聞かせ願いたい。

捉え方によっては、あなたの努力が足りないからでしょって言うように聞こえるんですよ。私はそこに非常に違和感を感じているんです。SBCが事業継承したことで、それが本当にビジネスチャンスになったか。お答えをお願いします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

昨日のご質問の答弁でも、私の方でお答えしましたけれども、様々な事業者の方がいらっしゃると思います。様々な経営スタイルの方もいらっしゃると思います。その中でのお話でございまして、私も全ての事業者の方にご意見を伺ったわけではありませんので、そういった方もいらっしゃるというのは事実でございます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

その件については、私も昨日の今日で時間がないので、後で検証させていただきますけども、これすごい経営能力のある人ですよ。さっきの話にもあったけども、11月1日に突然もう一切の交渉はしないって言うてきたわけですよ。それから、あつという間に転進をするってのはすごいなって感じます。

もう1回聞きますよ。SBCに経営移譲されたことが本当にチャンスだったのか。その変わった事業者の本当にチャンスだったのか、そうでないのか、その点だけお聞かせください。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

「チャンスだったのか、チャンスじゃなかったのか」っていうのは、それぞれの考え方で違うと思います。なので、その方がどう捉えたかっていうのは、私の方では理解をしておりません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、昨日の産業課長の答弁の「この機を新たなチャンスと捉え、事業を展開している事業者がいる」ということは、当たりませんか。どうなんですか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

丸山議員ご指摘のとおりでございます。

私、昨日、山浦議員の答弁の中で「この機を新たなチャンスとして捉えて」という発言をしております。ただ今の答弁と少し食い違っている部分がございますので、すいません、チャンスかどうかというのは直接聞いたわけでもございませんので、こういった表現、ちょっと食い違った点についてはお詫びを申し上げます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、その答弁をね、当然取り消していただきたい。とても私にとっては、業者さんに対して失礼な言葉に聞こえたので、取消しをお願いしたい。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、昨日の答弁について訂正をお願いいたします。

昨日の山浦議員の答弁の中で「これを機に新たなチャンスと捉えて事業を展開し」と申し上げましたが、「これを機に事業を展開し」という答弁に訂正をお願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問**6番 丸山邦久 議員**

それでは、2番目の質問に対してもう一つ質問します。

「民営化方針の中で、今の会社に託すことに決めた当時の考えに変わりはない。今後に期待している。」これ村長責任を持った答弁と考えていいですか。責任を持たれますね、この答弁。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

行政の長とすれば責任があると思っておりますが、それは村の方針として取り組んでいるということは、ご理解いただきたいというふうに思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問**6番 丸山邦久 議員**

SBCにするという話が議会に出てきた段階でね、まず事業計画書が提出されていなかった。事業計画書については、再三私は出してもらえという話をしたはずです。また、企業の信用調査所、これも当初取ってなかった。これも要望して取っていただいた。

事業計画書は、議会だけが見ていなかったんですか。それとも、村長は見ていられたんですか。それと、企業信用調査書、東京商工リサーチだと思っておりますが、それを村長は見られましたか。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日碁正博）

スキー場を始めとして、ホテルも含めて経営に対する考え方を聞いておりましたが、具体的な事業計画というものは見ておりません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問**6番 丸山邦久 議員**

企業信用調査書はいかがでしょうか。今聞いております。

議長（勝山 正）

日碁村長。

(村長「日碁正博」登壇)

村長（日臺正博）

私の記憶しているところでは、丸山議員も前半の部分については、スキー場の民営化については、賛同していただいていたというふうに思います。その際に、むしろ議会の方からは、今の状況を打開するために民営化を早く進めた方がいいんじゃないかというようなご意見も伺っていたというふうに記憶をしております。その辺も含めて村の方は対応していたということで、ご理解いただきたいというふうに思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

ちゃんと質問に答えてください。私は、企業信用調査書を見たかどうか聞いています。

議長（勝山 正）

日臺村長。

（村長「日臺正博」登壇）

村長（日臺正博）

調査書については、こちらの方では見ております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

私もその信用調査書を見ました。私の判断とすれば、10年先まで、この村の大切な資産を預ける企業としては思えなかった。

議長（勝山 正）

日臺村長。

（村長「日臺正博」登壇）

村長（日臺正博）

先ほど申し上げましたが、村の方針として議会の皆さんに説明申し上げて、その中で決定をしてきたということでもありますので、そういう方針を私は進めてきたということでもありますので、よろしく願いいたします。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

なかなか議論がかみ合わなくて困ってしまうわけでもあります。

しょうがないから、3番目にいきます。

困っている事業者が出ていることに対する責任は誰にあるのかっていう質問に対してですね、「様々な事業者がおられる中で一様に同じ状況にはない。」、当たり前のことですけども、誰に責任があるかとも考えていない。なかなか日墓村長らしい答弁だなと思うけども、はっきり申し上げて、あなた以上の責任者はいないんですよ。その点について自分の認識はどうなんですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

前段でも申し上げましたが、スキー場をしっかりと将来とも継続していくと、そういうことが一番大きな私の責任だというふうに考えております。その方向で、皆さんと協議をしながら進めてきたということでありまして。責任が、個々の責任なのか、それとも村全体として観光振興に対する責任なのか、その辺は、私とすれば村全体の観光行政、スキー場も含めてそれらについて、責任を持って進めてきたということでありまして、よろしくご理解いただきたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

先ほど私が「当初賛成であった」って村長は言われましたけども、当初の説明と現状は全く私は違っていたので、それで反対に回ったんです。最初は素晴らしい企業のような触れ込みでした。村が貸し付けた金額についても、ふるさと納税で納めるとか、そんな話がどっか行ってしまってね、全然当初の話と違う。それで、私としては反対に回ったわけだけども、賛成していたわけではないし、情報量があまりに少なかつただけの話です。

4番目にいきます。

本当に困っている業者に対して救済を考える気はあるような答弁でしたけれども、具体策はいつまでにできるんですか。やるやるって言ってやらないのが今までいっぱいあったような気がするんです。困っている人たちに対していつまでに具体策を作りますか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「具体策」というお話でございます。

先ほど村長の答弁にもありましたように、関係事業者の意見交換という場も捉えながら、その中でできる対策、できることを改めて検討していきたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

せめてめどくらい言ってください。いつまでをめどにするとか、何月何日とまでは言いません。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「いつまで」という数字的な答弁は、ちょっと今のところできないと思います。できるだけ早いうちに、先ほど村長答弁したように、意見交換会のような場を持ちまして、そこで聞いた意見をトータルして総合的に勘案して、検討をしていきたいと思っています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

そのように期待しております。

5番目の「SBCとの交渉をする窓口を産業課とする」と言われましたけれども、昨日来いろんな方が質問される中で、観光振興局っていう名前も出てきているんですね。これは一体どういうすみ分けをしているのか、はっきりくっきり分かるようにご答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

直接の窓口とすると、村の産業課として考えております。

ただ、観光振興という部分で、それぞれ会員になっている事業者の皆さんもいらっしゃいますので、観光振興局とともに考えていきたいというところであります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

観光振興局の評価が非常に悪くて、ここは観光振興局のことは質問できないらしいですけど、せめて産業課がしっかり責任を持ってやっていただきたいなと思っております。この間の意見を聞かせていただく会でも、観光振興局に対する期待度はゼロでありました。

全ての窓口は、産業課でやっていただきたいなと思います。いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

産業課の方で主な担当窓口として、一緒に共有してやっていきたいと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

気持ちいい答弁ですね。ありがとうございます。

6番目にいきます。

「姉妹都市・調布市との関係性が崩れることはない」、私の方に聞こえてくる話の中では、そうでもない声があるんです。本当に関係性が崩れることはありませんね。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

(産業課長「湯本寿男」登壇)

産業課長（湯本寿男）

ないと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

あった場合どうしますか。これは村長にお聞きしたい。

議長（勝山 正）

日臺村長。

(村長「日臺正博」登壇)

村長（日臺正博）

関係性が崩れるっていうことがどういう状態を指しているのかよく分かりませんが、村とすれば、姉妹都市交流についてはしっかりと将来とも継続していくように、関係性を保っていきたいというふうに考えております。

度々昨日から「責任」ということが出てきますが、変化があれば必ずその変化はほかにも波及してくる部分あるというふうに思いますので、その辺はしっかりと対応していきたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

すいません、村長のおっしゃる意味が分からなくて、「ケンカ」って言われましたか。なんて言われたんですか。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

状況が変われば周りが変わっていくっていうのは、あり得る話だというふうに思います。ただ、そこが、関係性が崩れるというふうには捉えておりません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

関係性が崩れないようにいっていただきたいなと思っています。

7番目の質問にいきます。

私は、別に役場の職員がお手伝いしたことに反対しているわけじゃないんですよ。それが、木島平のためになるのであれば別に反対はしてない。日墓村長にね、悪代官の役は似合わないっすよ。やっぱりね、強気を助けるのもいい。でも、弱きをくじくことがあったらいけないんじゃないかなと思います。どうもSBCの肩を持っているように、答弁全体を通して感じる。もっと、弱きを助ける、水戸黄門のようなね、立派な村長であってほしい。だから、SBCの要望をそれだけ聞くんだったら、もっともっと、地元で長く営業して、少なからずスキー場の運営に貢献されたね、事業者の方はもっと味方になってやってほしい。それをお願いしたいし、村長はその気があるかどうかお聞きしたい。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

私は、別にSBCの立場に立ってここで答弁しているわけではありません。

前段にも申し上げましたように、やはり民間企業として利益を求めていく、その中で村にプラスの効果を期待しているということでもあります。

その反面、村の中で困難な状況になっているという話もただ今ありましたが、それについては、また村の施策として、また別の意味で考えていかなきゃならないことだろうと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

2. 地域おこし協力隊の企業支援について

6番 丸山邦久 議員

それでは、2番目の質問にまいります。

地域おこし協力隊の起業支援についてであります。

令和6年度の予算書に、新たに地域おこし協力隊（以下、協力隊と呼ばさせていただきます。）4人の募集が計上されています。過去、木島平村の協力隊の村への定着率は低く、起業に至った例はないと認識しています。

一方、岡山県西粟倉村（にしあわくらそん）では、この10年間に60以上の新規事業の事業が立ち上がっております。この差について論議し、今後の人材育成、ひいては新規事業起業の促進を願って質問を行わせていただきます。

1番目、なぜ、令和6年度に採用する予定の4人を加えた協力隊員7人全員が、観光振興局に配属予定なのですか。

2番目、西粟倉村には40名の協力隊員が在籍しているようであります。その隊員は3種類に分類されています。

i) 起業型…起業支援に係る審査を通過すると、地域資源を活用した事業の立ち上げを目指す協力隊員。任期終了後は、村での事業自立と継続を目指す。

ii) 企業研究型…村内事業者の研修を受けつつ、2次創業や事業拡大のための事業に取り組む。任期終了後は、受入れ事業者での継続した雇用を想定する。

iii) 行政連携型…村役場に在籍または連携しながら、地域課題解決に取り組む。

この3種類に分類された隊員は、受入れ事業者または村役場に配属されています。

木島平村との決定的な違いは、「隊員は自社の既存事業を運営するための補充人材ではなく、自社の新たな取組、新規性を持った事業であり、または、自社にとって事業拡大を目指す挑戦にとって必要人材であること」と明記されていることでもあります。

採用の審査に当たって、企画書の提出とプレゼンテーション審査を義務付けています。やる気のある隊員を選抜して採用しているというふうに考えます。

また、受入れ事業者にも研修会参加が義務付けられていて、企画書の提出並びにプレゼンテーションの審査を受けて合格することが必須条件になっています。

このように、西粟倉村では起業する意欲の高い隊員を採用し、育成能力の高い企業に委託しています。翻って、木島平村の募集は週3.5日勤務等、仕事を楽にして志望を募っているように見えます。西粟倉村を見習って、起業意識の高い隊員を採用し、起業するためのシステム構築（これは人材育成システムを含みます。）をする方が、木島平村にとって良い結果が出ると思われるがいかがでしょうか。

3番目、副村長は就任当初「最重要課題として人材育成に取り組む」と所信を述べました。その点について過去2回質問しましたが、成果が出ているという答弁はありませんでした。観光振興局の理事長でもあるので、協力隊の教育・人材育成を担当し成果を上げたらよいのではないのでしょうか。

以上、お願いします。

議長（勝山 正）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

それでは、「地域おこし協力隊の採用方針について」のご質問ということではありますが、1点目、「観光振興局で勤務している理由について」であります。農林業、商工業を含めた産業分野、関係人口づくり、交流人口の創出から移住定住まで、様々な活動が観光に繋がる分野であるということ、そしてまた、人材を活用して幅広く活躍していただきたいと期待しているものであります。

くわえて、地域活性化起業人にも活用について教育部門を担っていただいているわけでもあります。

2点目、議員指摘のとおり、将来的に各分野で担い手不足などの解決策として、起業はもちろん、

事業継承等を想定した採用の仕組みも必要と考えております。

採用体制も含めた教育体制について大変重要でありますので、ご提案いただいた中身等も参考にしながら、これから検討してまいりたいというふうに思っております。

3つ目の質問については、副村長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

佐藤副村長。

（副村長「佐藤裕重」登壇）

副村長（佐藤裕重）

3点目の質問について、答弁させていただきます。

村の地域おこし協力隊設置要綱の任用条件としまして「地域おこしに意欲があり、地域住民等と積極的に協働ができる者」とあります。

縁あって村へお越しいただいた地域おこし協力隊の皆さんには、地域の皆さんと積極的に関わっていただきたいということ等を含めて、教育や人材育成は必要であるというふうに思っておりますけれども、同時に、将来村に定住し、起業若しくはそれまでの経験を生かした職に就けるよう支援をしてまいりたいと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、1番目の答弁について質問させていただきます。

7人の協力隊員がいることになるわけですが、こういった育成システムを持ってその人たちを育成していくのかをお聞きしたいと思います。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「協力隊の教育システム」というお話でございます。

現在、採用している又採用する予定の協力隊につきましては、先輩協力隊がいますので、1年、2年、3年の中で培ってきた情報ですとか、そういった村の状況を伝えるという立場で、協力隊に新しい協力隊の教育を少し担ってもらおうと考えております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

人に教えるっていうのは、非常に良い人材育成システムであると思います。それは教える側にとって非常に良い人材教育システムなんですよ。

ただ、教えられる方にとっては、それが本当にいいかどうかちょっと分からない。もっと具体的に考えてられるのではないのかなと思うので、答弁をお願いしたい。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「協力隊の教育システム」のお話でございます。

先ほど申し上げたように、先輩の協力隊がその経験を生かして、新しい協力隊に教えていくというところは始めるんですけども、今まで地域活性化起業人が教育を担っていた部分があります。

新年度の予算で、改めて域活性化起業人を採用する募集をしております。予算が決定次第、決めるわけですけども、またそういった起業人にも、そういった教育の知見ですとか経験した部分を採用の条件としておりますので、できればそういった連携を含めて、教育できるような体制を作っていきたいと思っています。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

採用をするということは、その人を育てるといってね、責任が伴ってくるんだと思うんですよ。ただ採用して3年間、いくらかの給料をもらってやってもらえばいいっていうわけではない。やはり、人生の貴重なね、3年間を相手は費やしてくるわけだ。その3年間を費やしてくる人たちに、ここで3年間いて良かったなと思われるような育成システムじゃなきゃいかんと、私は思うんですよ。少し協力隊員に対する愛が足りないかな。もっと協力隊員のことを思ってやって、思うならば、こういうふうにして育てていくんだって、システムがもう出来上がってなきゃいけない。もうすぐあれでしょ、予算通れば募集でしょ、募集というか採用するわけでしょ。その時点で、今のような答弁だったら全くの準備不足と私は思うが、産業課長どう考えますか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

丸山議員のおっしゃるとおりだと思います。

我々としても、新たに迎え入れる協力隊がこの地で定住をしていけるように、しっかりと教育をしていく準備を進めたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、2番目の質問について伺います。

ここで、2番目について想定した採用の仕組みも必要。要するに、今までのような雇用の緩さで募集するのではなくて、意欲を持った隊員を採用するような方法が必要だということには認識されているわけですよね。それで、その具体的な方法って何か考えてられますか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「採用の方法」でございますけれども、丸山議員先ほどおっしゃったように、いろいろな採用の方法がございます。

今、村では特に産業分野で、観光分野で、地域おこし協力隊を活用しております。

さきの議会の中でも、湯本行浩議員の方からも「農業分野の活用」という提案もございましたので、先ほど村長の答弁にもありましたように、事業の承継部分であったり、将来的な担い手の不足の部分であったり、そういったところを少し研究しながら、村が雇用する以外の、例えば委託型というところもございます。また、一般企業に籍を置いてという形もございますので、いろんな方法を検討しながら進めていきたいというふうに思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、起業するためのシステムということは、何か考えておられますか。

議長（勝山 正）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

「システムについて」は、今のところ具体的な策はございません。

ただ、起業する支援としまして、村で起業支援の補助金も創設しております。また関連して、特産品開発補助金ですとか、あと地域おこし協力隊の制度の中でも、起業した場合の支援策もございますので、当面そういったところも併用しながら、起業のシステムについてもどういったものが重要なのか、必要なのか、また研究して検討していきたいと思っております。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

今まであまり成果が出てないものですから、こういう質問をせざるを得ないわけです。この村に期待してくる人たちに、来たことを後悔させるようなことが絶対ないようにお願いします。

3番目にいきます。

これも悩ましいという答弁でしたよね。

私は、「協力隊の教育人材育成を担当し成果を上げたらどうなのか」ということを聞いたんですが、成果を上げると言うね、答弁がない。これはやる気がないっていうふうに捉えてもいいんでしょうか。

副村長お願いします。

議長（勝山 正）

佐藤副村長。

（副村長「佐藤裕重」登壇）

副村長（佐藤裕重）

成果を上げる気がないということではありませんけれども、答弁としては先ほどのような答弁であります。まずは、協力隊に寄り添って、一緒に将来を考えていきたいということでございます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

人材育成を「最重要課題として取り組む」って言ったんですから、もう少し真面目に取り組んでくれないと、ちょっと村民も納得しないんじゃないですか。

余談ですけども、副村長は「何をされているんですか」という問合せが結構くるんですよ。やる気はありますか。

議長（勝山 正）

佐藤副村長。

（副村長「佐藤裕重」登壇）

副村長（佐藤裕重）

職員も含めて、人材育成には取り組んでいるつもりでございますけれども、以前にも申し上げましたけれども、人材育成にはゴールというものはないというふうに思っております。私のできる範囲で力の限り尽くしてまいりたいと思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

人材育成の一つのゴールをね、前にトイレで副村長と話したことがあるんですよ。

この1月2日、3日に行われた駅伝、あれを見ていた方も多と思うんですが、あそこに一つの人材育成のね、要点があるんです。

青山学院の原監督が言っていました。

「自分で考え、自分で決断し、自分でやり抜く、こういう自律した人間を育てるのが私の目標である。」

じりつの「りつ」は、法律の「律」、Standの「立」ではありません。自律した人間に育て上げる。自律した人間ってどういうことかっていうと、要するに自分で目標を立て、自分でそれをクリアし、更に次の目標を立て、どんどん自分で成長していく人間が自律した人間です。

やはり、そこのところを少し勉強されて、支援をするっていうんだったら支援をされた方が私はいと思います。

議長（勝山 正）

佐藤副村長。

（副村長「佐藤裕重」登壇）

副村長（佐藤裕重）

私も人間ですから、完璧だとは思っておりません。それを踏まえて、丸山議員のアドバイスも含めて取り組んでまいりたいと思います

議長（勝山 正）

丸山議員。

3. 木島平フィロソフィについて

6番 丸山邦久 議員

人のね、自分が思っている自分と人が見た自分と、どちらが正しい自分かっていう問題があるんですよ。明らかに、人が見た自分が本来の自分なんです。そこをよくお考えいただけたら嬉しいなと思います。

では、3番目の木島平フィロソフィについて質問します。

先ほど湯本直木議員の方でも「横文字がいかん」という話がありました。

実はこの問題を出してからですね、一般の方から「フィロソフィって何だ」という質問がございました。

そこで、日本語に変えて話をすると、要は行動指針であります。ですから、この質問でも「フィロソフィ」を「行動指針」についてというふうに変えさせていただきます。

木島平行動指針について、職員の行動指針についてですね。

宮崎県都城市には、都城の職員の行動指針がある。30項目にわたって職員の行動指針を示している。策定の挨拶文には、ここ良いんですよ、感動しますからよく聞いてください。

「私たち都城市役所職員は、市民の皆様に『都城市が日本一の市（自治体）である』とさせていただけるよう、職員全員が同じ方向を向いて仕事に邁進するための指針を示した『都城職員行動指針』を策定しました。職員一人ひとりの『都城職員行動指針』の実践と、更なる人材育成による組織活性化を図ることで、都城市民の皆様のご幸福と都城市の発展を目指します。」

なんか涙出てきちゃいますよね。とあります。

30項目の行動指針は、難しいことを言っているのではありません。一つ一つは簡単なことなんです。30項目全てを実践すると素晴らしい自治体になるのだろうなと思ってしまいます。

そこで伺います。

1番目、都城職員行動指針の中の3つ。

・あいさつが全ての基本 ・一人ひとりが都城市役所 ・市民目線を貫く

この3項目を実践するだけで、木島平の庁舎の雰囲気が大きく改善されることになると思うが、村長はどのように考えていますか。

2番目、木島平村にも「木島平職員行動指針（哲学）」が必要であると思うことはありませんか。

3番目、村長にとって見習うべき自治体はどこでしょうか。
以上3点、答弁をお願いします。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

「木島平フィロソフィ」ということでありますが、議員がご指摘のとおり、公務員として非常に重要なことであるというふうに考えます。

この際、都城フィロソフィとその基になったという京セラの故稲森和夫氏の京セラフィロソフィを拝見させていただきましたが、役場のみならず木島平村にも当てはまると思い、今後参考にさせていただきたいというふうに思います。

「見習うべき自治体」ということでありますが、それぞれ自治体はやはり条件が違うわけでありませぬ。そっくりそのまま見習うべき自治体というふうには考えておりませぬが、条件の似通った県内の自治体等、子育てや産業支援などで成果を上げている自治体と、自治体というか首長とは積極的に意見交換をして参考にしているところでもあります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

何となく、1番目の質問の答弁が抜けているような気がするんですが、答えていただきましたっけ。だから、「都城フィロソフィの中の3つ、挨拶が全ての基本、一人ひとりが都城市役所、市民目線を貫く、この3つを実践するだけで、木島平村の庁舎の雰囲気が大きく改善されると思うが、村長の考えはいかがですか」って聞いているんです。答えていただきましたっけ。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

このご質問の中で、この3つの点についてそれぞれお答えするというふうに思っておりませぬが、確かに言われるとおり、職員が一人一人挨拶、そしてまた、自分自身がこの村の職員としてしっかりと自覚すること、そしてまた、そのもととなる目線をしっかりと村民に、そういうことっていうのは大事だというふうに思います。それによって、職員の資質も上がってくるだろうし、また、村民の皆さんの受け止め方もまた変わってくるだろうというふうに思います。

そんな意味で、先ほど申し上げましたが、役場のみならず、村民の皆さんのそういう気持ちがあれば村自体の、言ってみれば品格も上がってくる、そういう意味で参考にさせていただきたいというふうに申し上げました。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

なんでここで、庁舎の雰囲気ということに言及したかということ、木島平の庁舎に来て、まず挨拶がない。職場に重い空気が漂っていて、どっちかつうと私の方に来ないでくれみたいな印象を受けるわけですよ。これは、私の普段の言動が悪いから敬遠されているのかなと思って、いろんな人に聞いたら、結構皆さんも同じように考えている。せめて挨拶ぐらいしてよと。行ったらこんにちはぐらい言ってくれば雰囲気も変わるし、それから、みんな仕事を押し付け合っているみたいに感じる。それをやっぱり、一人一人が木島平村役場ということは、一人一人が村長と同じような自覚で仕事をしてれば、もっと村民に対しても仕事に対しても、取組方が違ってくるんじゃないか。市民目線を貫く。私達は公務員だからって言って、どうも市民目線とかけ離れている気がする。だから3つを選ばせていただいたんです。

村長は挨拶されていますか。誰に会っても挨拶されているかどうかちょっとお聞きしてみたい。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

できるだけ挨拶するようにしていますが、逆に言えば、全く見ず知らずの皆さんにいきなり挨拶するのは、また逆に失礼かなというふうに思います。

先ほど話がありましたが、村の職員、もし挨拶が足りないのであれば、またこれからしっかりとそれは周知をしていきたいとします。私自身もそういうふうに心がけていきたいとします。

時と場合によっていろんな条件がありますが、村にお越しいただく皆さんが、本当に気軽に気安く来ていただいて、そしてまた気軽に相談できる話ができる、そういう雰囲気づくりは大事だと思っておりますので、私自身も含めてしっかりと、これまでを振り返って、またしっかりとやっていきたいというふうに思います。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

ぜひそのようにお願いしたいなと思います。

なんで言うかといったら、あるこの村で仕事をしている人がね、おはようございますって言ったらびっくりされちゃって、「私、今まで村長にも副村長にも挨拶されたことがない」と、そういうふうに言われた方がいたんで、庁舎で会われた方には挨拶された方がいいと思いますし、移住促進のために来た人たちだって、やっぱり第一印象って大事だと思いますんで、ぜひ実践をお願いしたいと思います。

2番目については良い答弁だったと思います。

3番目の「村長にとって見習うべき自治体はどこか」に、「そこに子育て支援や子育てや産業振興などの成果を上げている自治体と積極的に意見交換をしている。」と。

子育て支援、産業振興で一体どこの自治体と積極的に話されているのか教えていただきたい。

議長（勝山 正）

日墓村長。

(村長「日基正博」登壇)

村長（日基正博）

具体的に町村名を述べるのは、差し控えさせていただきます。

ただ、皆さんもご存知のとおり、長野県内で人口増加が続いている、そしてまた、高齢化率が低い、逆に言えば、若い皆さんが多い、そういう自治体があるということは皆さんもご存知だというふうに思います。

そしてまた、産業振興、特に農業とかインバウンドも含めてそういう面でいろんな成果を上げている。それについては、特に皆さん方、県内の状況についてはご存知だというふうに思いますが、そういう皆さんとはいろいろ情報交換をしているということでもあります。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

今の答弁のとおりだったらいいなと思うんですが、具体的な名前を差し控える理由は何ですか。個人情報であれば言えないってのは分かるんですけども、自治体の名前ですよ。それが何で言えないのか、答弁をお願いします

議長（勝山 正）

日基村長。

(村長「日基正博」登壇)

村長（日基正博）

先ほど申し上げましたとおり、皆さんもご存知だというふうに思いますが、私の評価とそれぞれ自治体の評価は違うかもしれません。私が一方的に申し上げることは、差し控えさせていただきます。

議長（勝山 正）

丸山議員。

再質問

6番 丸山邦久 議員

それでは、私の得意な産業振興について伺います。

積極的に意見交換している割には、産業振興に実績が出ておりません。本当に積極的に意見交換をされているのでしょうか。

議長（勝山 正）

日基村長。

(村長「日基正博」登壇)

村長（日基正博）

「産業振興について成果が出ているか、出てないか」は、それぞれの判断によるところだろうというふうに思います。

成果が出てない部分というふうにあります、どの部分で出てないか、その辺お聞かせいただきたいというふうに思いますし、聞いたからといって、それがすぐ成果に結びつくものだとは思っておりません。

議長（勝山 正）

丸山議員。

6番 丸山邦久 議員

なかなかかみ合わない答弁なので、以上で終わります。

議長（勝山 正）

以上で、丸山議員の質問は終わります。

（終了 午後2時59分）

議長（勝山 正）

ここで暫時休憩とします。

再開は、午後3時05分とします。

（休憩 午後2時59分）